

# 果樹カメムシ情報第3号

平成21年9月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 1 発生状況

(1) 現在、フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は少ない状況です(図1)。また、予察灯における誘殺数は8月下旬に増加したものの、9月第2半旬では平年並に推移しています(図2)。果樹園への飛来や果実の被害は確認されていません。

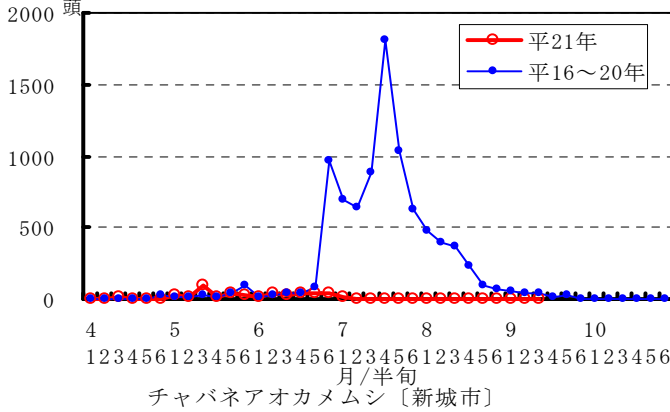


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

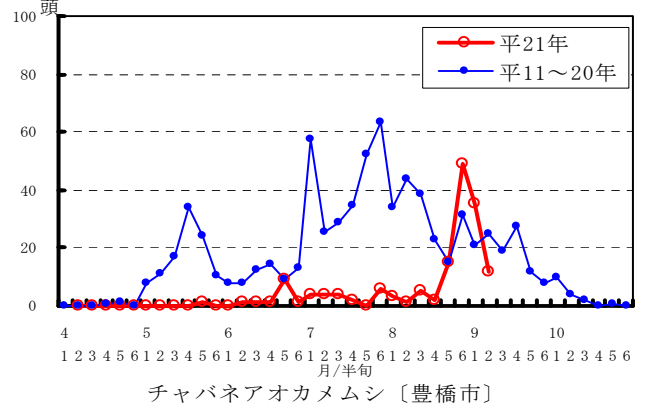


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

(2) 9月上旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ寄生虫数は、成虫5.0頭、幼虫は1.5頭でした(図3)。8月上旬よりもおよそ3倍に増加しています。また、9月上旬の口針鞘数は平均11.8本で、蒲郡市の清田と神ノ郷が多くなっています(図4、5)。

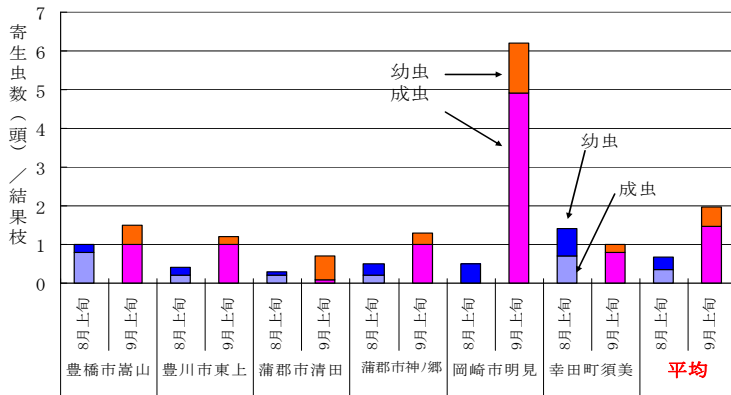


図3 ヒノキ結果枝におけるチャバネアオカメムシの寄生虫数

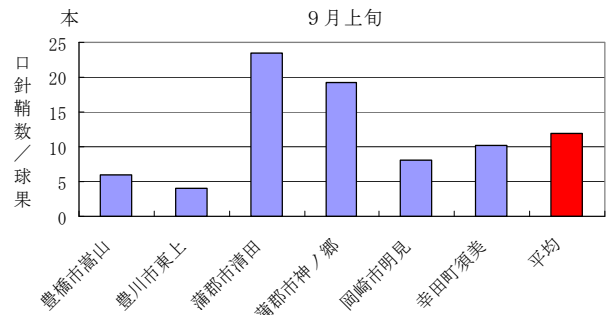


図4 ヒノキ球果における口針鞘数

## 2 今後の発生予測

- (1) 現在のヒノキ1結果枝当たりの寄生虫数は過去9年で最も多く、ヒノキの球果着生量もやや多いため、ヒノキ林には多くのチャバネアオカメムシが生息していると推察されます。
- (2) チャバネアオカメムシは、主要な餌であるヒノキ球果の口針鞘数が25本を越えると餌として不适当となるため、ヒノキ球果から離脱して果樹園に飛来すると言われています。現在のヒノキ球果の口針鞘数はまだ25本に達していないので、飛来は前回の果樹カメムシ情報2号で予測した9月上旬よりもやや遅くなると思われます。
- (3) 今後も、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。

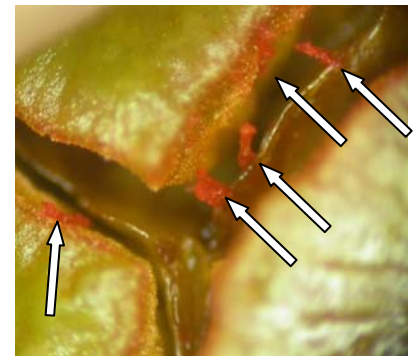


図5 ヒノキ球果の口針鞘 (酸性フクシンで染色)